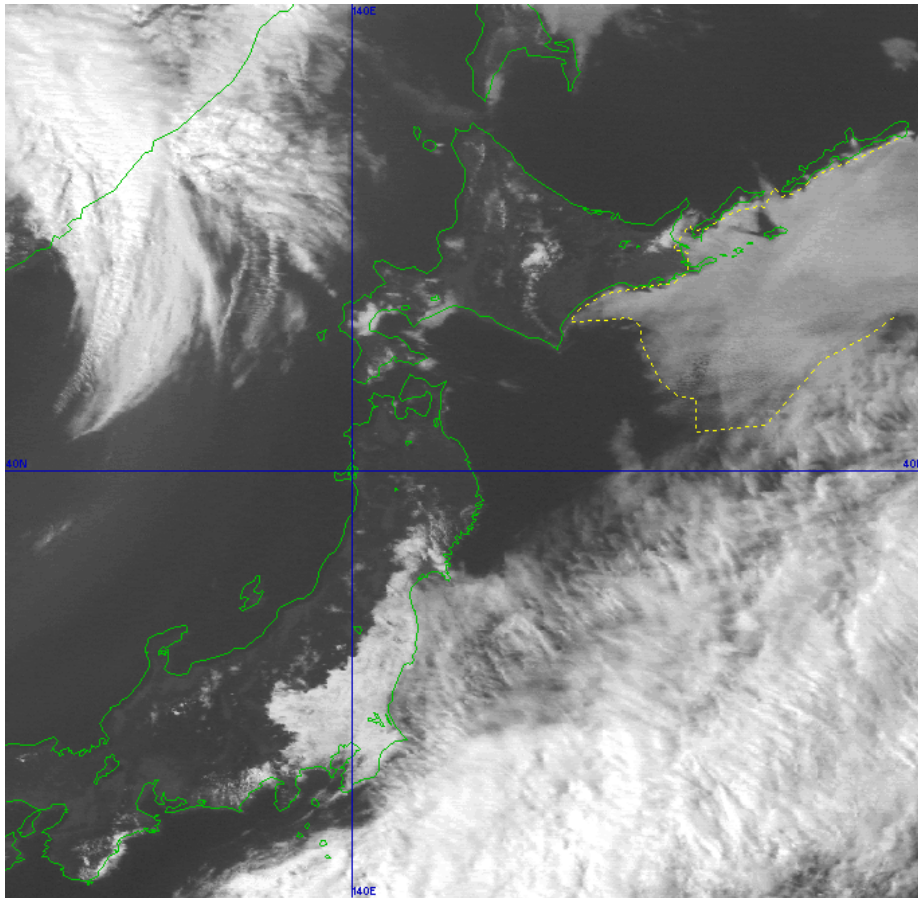


# 今月の気象衛星画像 (2004年5月)



2004年5月6日15時の可視画像

## 霧を含む下層雲

春から夏にかけて海上の広い範囲で霧が発生することが多くなる。この霧は主に移流霧であり海霧とも呼ばれ船舶にとって重要な情報である。海霧は比較的高温・多湿な空気が冷たい海面の上に流入した際に、下層から冷やされて発生する。

写真は6日15時の可視画像である。北海道の東海上に薄い灰色でベール状に広がっている雲域（黄色の点線）が見える。これは海上で発生した霧を含む下層雲であり、根室の地上観測でも霧を観測している。6日21時の根室の高層観測によると、上空約1000m付近に気温の逆転層が存在していることから、この雲の高さは逆転層より低いと考えられる。北上してきた下層雲が千島列島でさえぎられているのもこのためである。

また、宮城県付近から関東地方にかけて明灰色の雲域が見える。霧を含む下層雲域と比べると、同じ下層雲ではあるが雲頂がごつごつしており、層積雲が主体の雲域である。これは、前日関東の南岸を低気圧が通過した際に海上から流入する冷湿な北東気流がもたらした下層雲であるが、低気圧通過後も解消しなかったため、関東地方は終日曇天となり、関東各地は最高気温が平年値を大きく下回った。

(気象衛星センター)